

# 子供の不安をやわらげるためにできること

## 【文字を書くことが苦手な子供への理解と支援②】



習志野市総合教育センター

### 子供の様々な変化に不安を抱える保護者の皆様へ・・・

今回は「文字を書くことが苦手な子供への理解と支援」の第2弾を掲載します。前回は「書くことに時間がかかる子」への対応について『納得』がキーワードとなっていました。今回は『覚える』ことについてお伝えできればと思います。

#### ◇文字をノートに写せない

- ・子供のノートを見てみると、全然ノートを書いておらず、授業に参加していないように感じる。
- ・授業参観で教室の後ろから見ていたら、まったくノートに写そうとしない。
- ・子供が書いた作文をみたら、習っているはずの漢字を活用していないでひらがなが多い。  
このような子供たちは「やらないの?」それとも「困っているの?」どちらでしょうか。  
では困っているとしたら、どのように困っているのでしょうか。

#### <何度も黒板を見てしまう子>

黒板に書かれた文字をノートにうまく写せない子がいます。原因の1つに「覚えられない」ことが考えられます。ノートに写そうと思ってはいるのに、黒板からノートに目を移した瞬間に、何が書かれていたのか忘れてしまうのです。そのため、何度も黒板を見なくてはならず、面倒臭くなってしまいます。このような子には、タブレット端末で黒板を撮影し、ノートの隣において写してもいいと思います。

#### <ひらがなばかり使う子>

漢字を書くのが面倒で、ノートも作文もひらがなで書いてしまう子がいます。ひらがなで書くと、一文字に対して一音なので漢字よりも多くの文字を書けるため、文量を多くするために漢字を使わない子もいますが、そもそも漢字の形をうまく捉えられない子もいます。漢字を覚えることに困難さがある場合は、覚えるための特訓をするよりも、パソコンのタイピングを覚えた方が将来的には子供の役に立つこともあります。また、できないことを続けることで、自尊感情が傷ついてしまい、自信をもてなくなってしまうこともあります。なぜできないのかを一緒に考えてあげることで困ったときでも自分を支えてくれる人がいるという安心感をもつことができます。



#### <視覚よりも聴覚が優位>

よく話を聞いているのにノートをとらない子がいます。書くのが苦手ということもあると思いますが、中には「聞くのが得意」という子もいます。視覚的にものをとらえることが得意な人が約87%、聴覚的にとらえることが得意な人は約7%と言われています。そのため、見て書いて覚えるという選択肢を使用しない人も中にはいます。そういった人から見たとき、ノートをとるのが当たり前という方が不思議に見えるかもしれません。

お子様の心の変化や登校渋り等でお困りの時は、総合教育センター教育相談を御利用ください。  
総合教育センター 教育相談(047-475-8341) 青少年テレホン相談(047-475-7867)  
特別支援教育相談(047-476-0210) 適応指導教室「フレンドあいあい」(047-471-1236)